



外国出張報告書

平成 27 年 2 月 27 日

1. 出張国名 モザンビーク、ラオス
2. 出張月 平成 27 年 1 月
3. 出張目的 1 ナカラ回廊地域における栽培技術の持続性評価 :A
 2 プロジェクトサイト訪問(インドシナ農山村):C
4. 成果の概要

JIRCAS が NTCI を幹事会社として結成した共同企業体が受託した JICA 技プロ活動の一環として、モザンビークに出張し以下の調査研究活動を実施した。

- ProSAVANA-PI の「有用な微生物の選定」活動として、IIAM 菌根菌資材の効果についてのポット試験を開始した。
- ナンプラの IIAM 北東地域センターならびにリシंगाの北西地域センターにて研究者を集めたミーティングを開き、ProSAVANA-PI の次期フェーズがあった場合のニーズについて、現行プロの成果達成予測に鑑みて意見を募った。
- IIAM が他国あるいは国際機関と実施中あるいは計画中の研究プロジェクトについて、マプトにあるモ国農業研究プラットフォーム(PIAIT)事務局の代表から情報収集を行った。
昨年 1 月に締結された JIRCAS と IIAM による共同研究協定(MOC)に基づき、平成 28 年度から始まる次期中期計画の中で JIRCAS がモザンビークで実施すべき共同研究課題策定のための調査を行った。
- ナンプラ州モゴボラス郡、同ナカラベリャ郡、ニアッサ州リシंगा市周辺、同サンガ郡、マプト州マグディ郡他、現在畜産の比較的盛んな地域に赴き、農家による大型反芻動物の放牧ならびに肥育の様子を見聞し、また農家へのインタビューも含め畜産関連の研究ニーズを把握した。
- 農業省を訪問し、モザンビーク国の畜産の現況について、統計を入手するとともに、畜産局の局長らから、モ国畜産の問題点、畜産振興のビジョンならびにそのために必要な研究分野などについて議論を行った。

その後ラオスに移動し、「インドシナ農山村」プロジェクトの活動を視察した。